

平成 19 年度 江戸川区「行政評価」事務事業分析シート

整理番号	7	作成日	平成 19 年 7 月 6 日
事業名	資源回収事業（古紙、びん、缶）		
所属名	環境部 清掃計画課 計画係	電話番号	(03) 5662-8434 (直通)

《事業の目的及び概要》 《事業の開始年度》 平成 1 1 年度

資源（古紙、びん、缶）を区民が適切に排出することにより、資源リサイクルの推進を図ります。

指示された地域の資源ごみ集積所から、週 1 回、区の指定する曜日に委託された回収業者が回収します。分別状況が悪い場合はシールを貼付し指導しています。分別方法はホームページ等で周知しています。

また、持ち去り対策として正規の回収時間である午前 8 時の 1 時間前から集積所を巡回し回収しています。

さらに、平成 1 8 年 1 2 月からは区内全域でペットボトルの集積所回収を開始し、平成 1 9 年 3 月から廃プラスチックについて一部地域でモデル事業として回収しています。

【区人口・平成 19 年 4 月 1 日現在】

対象者 665,633 人 (外国人登録数を含む) 世帯数 2 9 5, 8 0 7 (平成 19 年 4 月 1 日現在)

活動指標

活動指標	集積所数	活動指標	古紙、びん、缶の回収量
18 年度	2 1, 4 0 0 か所 (17 年度) 2 1, 4 0 0 か所	18 年度	1 7, 5 4 5 t (17 年度) 1 6, 0 4 2 t

成果・目標指標

古紙、びん、缶の排出協力率

18 年度 47.2% **21 年度 目標 60%**

説明

可燃・不燃ごみの中に排出されている資源を分別し、資源として排出してもらい、排出の協力率を高めることによりリサイクルを推進していきます。

さらに回収した資源は売却可能なものもあるため、回収増によって収入の確保を図ります。

売却金額：平成 1 7 年度 9 1, 4 9 4 千円 平成 1 8 年度 132,385 千円

経費の概要

18 年度 事業実施経費 568,849 千円

内訳

1 人あたりの処理費用 約 8 8 4 円 (1 世帯あたり約 1, 9 3 4 円)

【人件費と担当職員数】	ア 常勤職員	0.0 人
委託費に含まれます。	イ 非常勤職員	0.0 人
	ウ 臨時職員	0.0 人

経費の説明

主な経費は委託費です。(17 年度は 4 4 1, 8 7 5 千円です。18 年度から区内全域での回収を委託したので、経費が増加しました。処理費用は平成 1 8 年 1 0 月 1 日現在の人口・世帯を基準にしました)

その他

《実施の根拠となる法令等》

《民間委託やボランティアなどとの協働の状況》

《区民からのご意見やご要望》

資源の持ち去り行為に対して対応してほしい。

《その他》

平成19年度 江戸川区「行政評価」内部評価シート

整理番号	7	事業名	資源回収事業（古紙、びん、缶）
		所属名	環境部 清掃計画課 計画係

所管課長評価

評価項目	評価及び・評価の視点			所管課コメント	
 <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 10px;"> A B C </div>					
1 有効性	有効である	A		有効でない	巡回時間を設けたことにより、回収量の増につながった。
	・事業の目的を達成するために有効である。				
2 公平性	公平である		B	公平でない	前日の夜に出されたものを持ち去る者がいる。
	・対象者や実施回数等は適切である。 ・受益者負担の額は適切である。				
3 民間活力の活用	現状ままでよい	A		促進したほうがよい	全面的に民間活力を活用している。
	・ボランティアやNPOと協働して実施したほうがよい。 ・民間事業者へ委託等したほうがよい。				
4 効率性	現状ままでよい	A		改善の必要がある	業者は工夫して回収している。
	・効率的に実施するために、工夫、改善等の必要がある。 ・経費を削減できる。				
5 必要性	必要である		B	必要ない	資源回収を全面的に集団回収に移行できない以上、公費の投入はやむをえない。
	・事業の目的を果たすためには公費を投じて実施するべき事業である。				

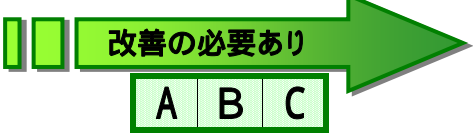
所管部長の意見等

循環型社会の構築のためには、生活に根ざした資源を適切に回収し、リサイクルに回すことが大切である。持ち去り対策は各自治体共通の課題であり、この解決のために民間活用を図ったのが、この事業である。従来の直営に比べ、機動力が生かされ、着実な成果をあげている。

平成19年度 江戸川区「行政評価」外部評価シート

整理番号	7	事業名	資源回収事業（古紙、びん、缶）
所属名		環境部 清掃計画課 計画係	

外部評価委員会評価

評価項目	評価及び・評価の視点			備考
				
1 有効性	有効である	A	有効でない	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的を達成するために有効である。
2 公平性	公平である	A	公平でない	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者や実施回数等は適切である。 ・受益者負担の額は適切である。
3 民間活力の活用	現状ままでよい	B	促進したほうがよい	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアやNPOと協働して実施したほうがよい。 ・民間事業者へ委託等したほうがよい。
4 効率性	現状ままでよい	B	改善の必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的に実施するために、工夫、改善等の必要がある。 ・経費を削減できる。
5 必要性	必要である	A	必要ない	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的を果たすためには公費を投じて実施すべき事業である。

外部評価委員の各意見

- ・資源回収に力を入れていることは、区の誇りだと思う。
- ・指定曜日・指定時間だけでなく、常設の場所があってもよいのではないか。また、常設場所について区民に周知してもよいのではないか。
- ・各自治体によって回収方法が異なるため混乱を招いていると思う。合理的に回収がされるよう全国的に統一できるような議論も進めて欲しい。
- ・資源回収の持ち去り対策が必要である。